

静岡県知事賞

母は私のスーパーヒーロー

熱海市立多賀小学校 五年

小松 舞華



私はおばんに家族でばんおどりに行きました。金魚すくいやヨーヨーつりもやっていて私と妹は、ばんおどりよりも遊びに夢中になってしまいました。たくさん遊んで、お父さんとお母さんのいる席にもどると、お母さんがいなかったのとお父さんに、「お母さんは!？」と聞くと、「あっちだよ。」と指さした方を見ると、車いすに乗ったおじいさんとおばあさんとばんおどりの輪の中にいました。私は、（ああ。お母さんのかん者さんなのかな？）と思いました。お母さんは、車

いすをおしてあげたり、おどっているおばあさんの写真をとったり、うちわであおいであげたり、にこにこしながらお手伝いしていました。私は、あんなに楽しそうにお手伝いしているんだからかん者さんじゃなくて知っている人なのかな？と今度は思っ、お父さんに「あの人達はお母さんの知り合いなのかな？」と聞くと、「知らない人だと思うよ。」と言うので「え？」と聞き直すと「おばあちゃんがおじいちゃんのかん者さんなのを見て、行っちゃったよ。お母さんおせっ

かいだからなあ。」と笑っていました。さっきまで「暑い、暑い。動きたくない。」と言って、すわってばかりのお母さんが、知らないおじいちゃんとおばあちゃんのためにお手伝いに行ったなんて。私は、早くお母さんのお話を聞きたくて、その場に立ったまま待っていました。音楽が止まって、お母さんがもどってきました。「お母さん!! どうしたの!？」するとお母さんは「どうしたのって何よ? ぼんおどりしてきたんだよ。」と言うので「お母さん、ぼんおどり得意なの?」と聞くと、お母さんは大きな声で笑いました。「お母さん、ぼんおどりなんておどれないよ。おどれないから見てたら、あそこにいるおじいちゃんとおばあちゃんが見えたの。ゆかたを着てすてきでしょ。おばあちゃんは手びょうししながら車いすもおして…。忙しく見えたからお手伝いに行ったんだよ。」私はお母さんが人のために行動したことがすごく思えました。そして「『せっかくだからおばあちゃんおどって!! おじいちゃんに見せてあげて!!』って言ったんだよ。そしてらおばあちゃん、いいの! ってよろこんでくれて、おじいちゃんもすごくうれしそうでさ。そんな顔を写真に残してあげたくて写真もとったんだ。お母さん汗びっちょりだよ。」って笑っていました。

知らない人のために行動して笑顔にするなんてお母さんは



静岡県知事賞

ヒーローだな、と思いました。「お母さんすごい!! でも声かけてことわれたらどうしよう、とか思わなかったの?」と聞くと「ことわれたら、大きなお世話だっただけじゃん。」と笑っていました。「親切かどうかは受け取る人の気持ちだから。結果は気にしないで自分の心が正しいと思うことはやるべきだね。」と、ちょっと得意気に笑うお母さんを私は真まんに思いました。



静岡県知事賞

ノクターンにのせて

静岡大学教育学部附属浜松中学校 一年

小澤 響



中学生になると、ますますぼくは「親切な人」から遠ざかっていった。人に優しくして、それに対してほめられたり感謝されたりしたくない。むしろ、人と関わらず一人で静かに過ごしたい。『思いやり』『人は一人では生きていけない』。そういう言葉とは反対岸に、ぼくは取り残されていた。

しかし、家族はそんなぼくの気持ちにお構いなしに関わってくるから不思議だ。父も母も妹たちも、ぼくがろくに「ありがとう」も言わないのに、むしろ嬉しそうにあれこれしてくれる。感謝し

ないぼくに対して「響は思春期だからね」と言って笑っている。そういえば、幼稚園や小学生の頃、ぼくはもっと人に優しくかった。泣いている友達の頭をなでてあげたり、百円を拾って交番に届けたり。『思春期』が終われば、ぼくはまた「親切な人」に戻れるのだろうか。

ある日、母がとても疲れていた。先月入院していた母は体力が回復していない。妹たちやぼくの習い事の送迎が重なったあと、母がソファに座り長い時間息をつくのが聞こえた。その時の自分

の気持ちは今でもうまく説明できない。ぼくは、楽譜棚から楽譜を一冊取ってから、ピアノの前に座った。

弾いたのは、母が好きな曲、ショパンのノクターン。弾き始めてすぐ母の「急にどうしたの？響がピアノ弾くの久しぶりだね」と驚く声が聞こえた。ぼくは、数か月ぶりに触るピアノの鍵盤でミスタッチばかりのノクターンを弾きながら、心が何かで満たされていくのを感じた。そして気付いた。『ぼくは今、母を笑顔にしたくてピアノを弾いている。』

「疲れてるの？大丈夫？」「何か手伝おうか？」「いつもありがとう。」本当はそういう言葉がさっと言える人でありたかった。しかし、言葉や態度の代わりに、音楽で感謝や気持ちを伝えることだってできるんだ。ぼくは今めちゃくちゃなノクターンにのせて、母へ「体は大丈夫？いつもありがとう」と言っているんだ。

弾き終わると、母の目は赤かった。ぼくの気持ちが少しは届いただろうか。しかし同時に、伝わっていなくても別にいいじゃないか、とも思った。ピアノを弾きながらぼくの心をあたたく満たしていたものは、人を思う気持ち。ぼくは自分の心に温度があることを知ることができた。今のぼくにはそれだけで充分だった。

「思いは見えないけれど、思いやりは見える」という言葉を本で読んだことがある。けれど、ぼくは「思い」も見えるのではないかと思う。たとえば音楽で、絵画で、手紙で……。いろいろな

ちで「思い」が見えれば、もっと世界は優しくなるだろう。自分の心の温度を感じながら、ぼくは少しずつ「親切な人」に近づいていきたい。

